

— 千葉工業大学 —

2月1日 A日程 英語

解答・解説

1.

(1) ウ (2) エ (3) イ (4) イ (5) ア (6) ① ア ② ウ ③ ウ (7) ① エ ② ア

- (1) 下線部(1)の後の **as France** に注目。「同じくらい」という意味の副詞の **as** を含むウが正解。
- (2) **sound** は形容詞で「(建物などが) しっかりした」という意味。
- (3) 下線部(3)を含む英文の前の文から判断。**every car** はゴンドラの「一台」を指す。
- (4) イは「百万を優に超える人々が博覧会中、事故もなくそのゴンドラに乗った」**well over a million passengers** が主語で **rode** が動詞。構文把握も大切。
- (5) イは「この回転によって発生した電気」という記述は本文にない。ウは「チェーンとグラウンド・ホイールの摩擦を利用し」という記述は本文にはない。エは「地下パイプ内のチェーン」が本文にない。アの内容のすべてが、本文から読み取ることができる。
- (6) ① 第4段落の内容から判断。**Burnham** は **Ferris** の提案した内容について、安全ではない、物理学の法則に反していると言っている。
 ② 第5段落の内容から判断。同段落第2文の **countless** は「数えきれないほどの、無数の」という意味。
 ③ 第6段落の内容から判断。ウの文中“**compares the Ferris wheel to the bicycle wheel**”は「**Ferris** のホイールを自転車のタイヤにたとえる[なぞらえる]」という意味。
- (7) ① 第2段落第4文の内容から判断。
 ② 第5段落第4文の内容から判断。

2.

① オ ② キ ③ イ ④ ウ ⑤ ア ⑥ エ ⑦ カ

- ① オの文中 **these questions** が指すのが、空所①の前の2つの疑問文。
- ② 空所②の前文「**Partch** が **many ancient cultures** に精通していた」という内容に続いて、**ancient culture** であるところの「**Hebrew, Chinese, Egyptian**」の文化の産物を「彼の曲に組み入れた」という内容の文が来る。
- ③ **sink** は「(台所などの)流し」イの文は「流しの中の音は、音楽のように聞こえる」という意味。
- ④ **acoustical**「聴覚の」④の前の **as a result** は「結果として」前の文で書かれた結果が空所④に入る文。
- ⑤ アの文中 **refuse** は名詞で「がらくた、廃物」の意味。
- ⑥ 空所⑥に至るまで、**homemade instruments**「家にあるもので作った楽器」について書かれている。
- ⑦ カの文中 **the innovators of today**「今日の革新者」とは、「本来楽器ではないものを、楽器として使えるようにしてしまう人たち」のことを言う。

3.

- (1) イ (2) ウ (3) ア (4) エ (5) ア

- (1) イの **what surprised me the most** がこの文の主語で「私をいちばん驚かせたこと」という意味。ウは最後の **members** と複数形になっているのが誤り。エは **that** の後が完全文なら正しい。
- (2) ウの主語は **my grandmother**、その直後に関係代名詞 **who** が導く節が挿入され、**survived** が動詞。他動詞で目的語をとって「～より長生きする」
- (3) **since** 以下で示された過去の時点を起点として、「ずっと働き続けている」は現在完了進行形で書かれている。
- (4) イの **forgive** は **forgive~for~ing** で「…(過去にしてしまった過ち)に対して～を許す」の意なので、この問題文の意味と合わない。**allow~to~(不定詞)** で「～が(これから)…するのを許す」
- (5) **it turns out that~** で「～であることが分かる」イは **whom** が導く節の動詞が **thought** ではなく **took** または **mistook** なら正しい。

4.

- (1) ウ (2) イ (3) エ (4) ア (5) エ (6) ウ

- (1) ウ以外は動詞ではないので、品詞の観点からそもそも入れられない。**produce** は「～を生じさせる、もたらす」という意味。
- (2) **want** の 5 文型。後に目的語、さらに補語に不定詞をとって「O に～してもらいたい」という意味。
- (3) 不定詞の意味上の主語 **you** の前に置く前置詞を問う。**rude** が人の性質を表す形容詞で、その場合 **of**。
- (4) 先行詞を含む関係代名詞の **what**。文は「愛は彼が人生を通して最も尊重するものでした」という意味。
- (5) **frustrated** は「イライラしている」という意味の形容詞。
- (6) **enjoy** は目的語に動名詞をとる。「～することを楽しむ」

5.

- (1) イ (2) ウ (3) ア (4) エ (5) ア (6) ウ

- (1) **support** は「～を支援する」この場合の **back** は動詞。
- (2) **drop in** で「ちょっと訪ねる、立ち寄る」その後 **at** の後に「場所」、**on** だと「人」が来る。
- (3) **turn up** この場合は他動詞で「〈音量・光・熱など〉を大きく[強く]する」という意味。
- (4) **make up one's mind** 「決心する」
- (5) **go with** で「～と調和する、つり合う」という意味。**well** は副詞「よく、十分」
- (6) **in place of~** 「～(人・物)の代わりに」

総評

1. 長文総合問題

1893年にアメリカ・シカゴで開かれた万国博覧会で、パリのエッフェル塔に対抗して建設されたモーター駆動による機械式観覧車についての英文。機械が動く仕組みについて書かれている箇所も多く、それを踏まえた設問も目立つ。特に(5)は第8・9段落を忠実に読み取らないと正解が出づらいが、それだけにいわゆる「捨て問」扱いにして、他の設問・大問に時間を費やした方が得策かと思われる。

2. 会話文挿入問題

昨日の同大学の入試問題でも、同じ大問2で全く同じ形式の問題が出されたが、本日2月1日の方が、難易度が高い。

3. 和文英訳・選択問題

こちらも大問2と同様、昨日と同じ大問3で同じ形式。気を配る点は昨日と変わらないが、文法上のポイントとなっている事柄がやや難しく、【正しい／誤っている】の判別がしづらい。

4. 短文空欄補充・選択問題

主には文法的知識を問うもの。平易なので全問正解も可能。

5. 同意語句・選択問題

単語・熟語の知識問題。「知っていれば難なくできる」「知らないとできない」…普段の「覚える」系の地道な学習成果が反映される。昨日と同じ形式だが、本日の方が若干レベルは高め。

～全体を通して～

昨日の同大学の入試問題と比べて、一見したところの形式・雰囲気は非常に近いものではあるが、そのレベル・長文の語数の多さなど、昨日に比べると数段やりづらく難しくなっているような印象です。大問1の箇所で述べたように「(5)を捨てる」といったような、ある程度、メリハリのある取り組みが必要かと思われます。

加えて昨日以上に、【問題を解く順序】というのも大きなポイントになります。大問1から順々に進めるというより、比較的手軽な大問3～5を先に処理して、大問2→大問1へ…そして大問1は先述の(5)など、状況に応じて捨てる問題もある…というのが理想的な展開でしょう。